

Pitchari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第103号

ななえ古写真物語

VOL. 103

駒ヶ岳登山会

想定を超える自然

昭和4年

駒ヶ岳



(主催館晴見馬相園公沼大) 會山登嶽ヶ駒回八第 (日二十二月九年四和昭)

昭和4年6月17日、鳴動と共に火柱を噴きあげ駒ヶ岳は大噴火に至った。噴煙の高さは13,000mにもなったといわれ、函館山の麓からもその姿がはっきりと確認できたという。その様子は写真記録として多く残され、当館でもガラス乾板の写真を資料として保管しています。恐らくは、駒ヶ岳の噴火の様子を写真記録として残した初めての噴火が、昭和4年の大噴火なのだと思います。

さて、驚くのが上の写真である。一面の岩海原で撮られた集合写真の右側には「第八回駒ヶ岳登山会」の横断幕が掲げられている。一見すると和気あいあいとした登山会のように思われるし、こんなに多くの人が登山会に集まるのかと、往時の登山ブームの盛り上がりを感じずにはいられないのだが、大沼公園相馬見晴館主催で行われたこの登山会が開催されたのは、昭和4年9月22日。そう、駒ヶ岳の大噴火からわずか3ヶ月ほどしか経っていないのだ。9月25日付けの函館新聞の記事には、200名が活動中の噴火口を見物したというのだから、さらに驚きである。現代なら信じられないタイミングでの登山会の開催は、おおらかな時代だったからという見方も出来るかもしれません。

しかし、現在の駒ヶ岳は平成8年から12年にかけて、8回の小噴火が起こった影響から、入山規制がかけられ、登山道は赤井川から馬の背までとなっています。こういった措置は、火山災害のリスクを低減するための必要最低限のルールとして行われており、今なお活動中の駒ヶ岳は、突如として噴火する可能性があることを意味しています。

事実、規制の発端となった計8回の小噴火でさえ、予兆を捉えることが出来なかったのですから、何が起こっても不思議ではないし、私たちの想定をたやすく超えるからこそ「自然の猛威」という形で災害となることを忘れてはならないのだと思います。

ところで、入山規制が緩和されてから、駒ヶ岳の植生がどのくらい回復したのかを調べるため、当館では、登山道で見られる植物を記録してきました。眼下に広がる大沼の景色を眺め、足元の岩海原の間で静かに咲く高山性植物と会話する時間の中、高い位置まで緑が回復してきたことを感じましたが、ロープで囲われた「馬の背」の向こう側で、時折、噴煙があがる様子を見て、生きている山であることを実感しました。それが駒ヶ岳という山なのです。

8月の予定

4日

気まぐれな空模様のなか、講師に金澤晋一氏をお招きし、フォレストコーミングを開催致しました。七飯町が誇る巨樹「大トチノキ」をメインに、普段はあまり気にとめることがない、ちいさな花々や植物に息づく虫たちなどを、細かに解説をして頂きながら、散策をしました。

例えば身近な植物の名前の由来、嫌われてしまう外来種、花は見ていても、意外に知らない種の姿。

そして「大トチノキ」の雄姿に触れ、改めて七飯町の自然の豊さを感じました。



8日

夜の博物館前期講座の第1夜が始まりました。お題は「虫のはなし」。当館にある昆虫標本と学芸員愛用の採集道具を紹介すると、初めてみる受講生の皆さんからは、様々な質問が飛び交います。昆虫は、どんな条件で探ることができるのか。講座の数時間前に採集してきたハムシを実際に見て頂きながらお話をしました。感嘆と驚きの声が励みになる一夜となりました。

25日

ジュニア探検クラブは、荒天で中止になった登山の代わりに、二つの施設の見学をしました。移動するバスの中で「登山が良かったあ」と残念そうにつぶやく子。後ろめたさを感じつつ、最初の見学先「市立函館博物館」へ。長い歴史のなかで収集されてきた資料で意外に人気だったのは、「刀」。装飾の美しさに驚いたようです。次に訪れた「坂本龍馬記念館」では、ユーモアたっぷりの人物伝を聞きました。来年こそは、山の頂きから眺める「七飯」を皆で見たいと思っているのですが・・・。



1	月
2	火
3	水 夜の博物館
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木 山の日
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土 ジュニア探検クラブ
21	日 テーマ展終了
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火
31	水

8月の休館日はありません

こけし

事務室のカウンターに飾ってあるこけし。11系統ある中の鳴子系と呼ばれるものです。日本の民芸が感じられる寄贈資料の一つです。



編集後記 ~tawagoto~

夏のセミが鳴きはじめたが、ここ最近の天気は雨続き。北海道に梅雨はないと言うが、違うのではないかと思ってしまうほど。そんな中、開催中の展示「蝶博」のために、蝶を採集しなければならない私ほど、蝦夷梅雨ともいべき長雨を憎んでいる者はいないと思う。わずかな晴れ間をぬって近場で採集するものの、外へ出るたびに、小雨が注ぐ・・・。

ああ、自分は雨男だった。ふと思い出した忌まわしい事実を受け入れるとする。（やまだひさし）

Richard ~ピチャリ~
第103号

平成28年7月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp